

十二人の怒れる男 (1957)

12 ANGRY MEN

メディア 映画

ジャンル ドラマ サスペンス

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 95分

初公開日 1959/08/01

公開情報 松竹セレクト

映倫 G

【解説】

既に法廷劇の代名詞となって久しい、アメリカ映画史に輝く傑作ドラマ。元々は高い評価を受けたTV作品で、その脚本・演出コンビによる映画版だが、そのいかにもTV向きの密室劇を上手くスクリーンに転化させた手腕は見事の一言。17歳の少年が起こした殺人事件に関する陪審員の討論が始まったが、誰が見ても有罪と思えたその状況下で、ひとりの陪審員が無罪を主張した事から物語は動き始める……。時には感情的に、時には論理的に展開される討論が、次第に無罪判決への流れに変わっていくスリルが、12人の点描と共に丹念に描かれていく。脚本のローズと共に製作を担当したH・フォンダをはじめ役者陣の充実ぶりも良く、特に最後まで有罪を主張するリー・J・コップが強い印象を残す。今までの密室から一転、裁判所前で皆が別れていくラスト・シーンの解放感が快い。

【クレジット】

監督	シドニー・ルメット	Sidney Lumet
製作	レジナルド・ローズ	Reginald Rose
	ヘンリー・フォンダ	Henry Fonda
脚本	レジナルド・ローズ	Reginald Rose
撮影	ボリス・カウフマン	Boris Kaufman
音楽	ケニヨン・ホプキンス	Kenyon Hopkins
出演	ヘンリー・フォンダ	Henry Fonda 陪審員 8 番
	リー・J・コップ	Lee J. Cobb 陪審員 3 番
	エド・ベグリー	Ed Begley 陪審員 10 番
	マーティン・バルサム	Martin Balsam 陪審員 1 番
	E・G・マーシャル	E.G. Marshall 陪審員 4 番
	ジャック・クラグマン	Jack Klugman 陪審員 5 番
	ジョン・フィードラー	John Fiedler 陪審員 2 番
	ジョージ・ヴォスコヴェック	George Voskovec 陪審員 11 番
	ロバート・ウェッバー	Robert Webber 陪審員 12 番
	エドワード・ビンズ	Edward Binns 陪審員 6 番
	ジョセフ・スウィーニー	Joseph Sweeney 陪審員 9 番
	ジャック・ウォーデン	Jack Warden 陪審員 7 番